

議会報告会・市民意見交換会 報告書

開催日時	令和6年11月17日(日) (1) 議会報告会 18時～19時20分 (2) 市民意見交換会 19時30分～20時21分		
会場	金井コミュニティセンター ホール		
出席議員 役割分担	役割	班長等	班員
	総括	金田淳一 山田伸之	
	司会	山田伸之	
	設営班	林純一	村川拓人 川原茂 坂下真斗 佐々木ひとみ 中川健二 荒井眞理 坂下善英 山本卓 佐藤孝 近藤和義
	受付班	中川直美	山本健二 佐藤定 駒形信雄
	記録班	平田和太龍	栗山嘉男 広瀬大海 室岡啓史
進行	<p>(開会のあいさつ 金田淳一議長)</p> <p>1 議会報告会「9月定例会について」</p> <p>(1) 総務文教常任委員会(坂下善英委員長・平田和太龍副委員長) (質問コーナー)</p> <p>(2) 市民厚生常任委員会(佐藤定委員長・中川健二副委員長) (質問コーナー)</p> <p>(3) 産業建設常任委員会(山本健二委員長・広瀬大海副委員長) (質問コーナー)</p> <p>(休憩)</p> <p>2 市民意見交換会「議員定数について」</p> <p>(1) 定数増(荒井眞理議員)</p> <p>(2) 定数減(山本卓議員)</p> <p>(3) 現状維持(中川直美議員) (質問コーナー)</p> <p>(閉会のあいさつ 室岡啓史副議長)</p>		
参加者数	34人		
参加者からの発言(主なもの)	3～5頁		
市民アンケート	6頁～		
動画配信の状況	令和6年12月24日から録画動画の配信を開始 令和7年1月31日現在の視聴数 議会報告会 276、市民意見交換会 344		

今後の 課題等	<p>1 開催日時について</p> <p>① 色々な年代層の方が参加しやすい日時を検討すべき。</p> <p>② どなたも来られるような日時の設定は難しい。動画配信を行うのだから、日時はいつでもよい。</p> <p>③ 複数会場・複数日時を検討すべき。</p>
	<p>2 開催方法について</p> <p>① 3常任委員会・3会場がよいのではないか。</p> <p>② 座談会的に少人数で開催してもよいのではないか。</p>
	<p>3 議会報告会について</p> <p>① 議会報告会が20分ほど長引いた。1時間では足りなかった。</p> <p>② 2つ聞かれたが1つにしか答えられずそのまま終了するということがあった。質問は一人一回という方法は改めるべき。一人一回のままならもっと準備して臨むべき。</p> <p>③ 各委員長はもっと答弁の準備をしていくべき。例えば、議会だよりに掲載した事項については、手持ち資料等を用意して臨むべき。</p> <p>④ 委員長・副委員長に任せるのではなく、常任委員全員が前に出るべき。</p> <p>⑤ テーマにそぐわない発言が出たり、噛み合わなかったりすることは仕方ない。許容して対応すべき。</p> <p>⑥ 細かい数字の質問に回答するのは難しい。(細かいことに答えられないのは当然だ。)</p> <p>⑦ 賛成・反対の理由ぐらいは総論として答えるべき。</p> <p>⑧ 議員個人への質問に対して、本人から答えさせても良いのではないか。</p>
	<p>4 市民意見交換会について</p> <p>① テーマなしのフリートークの時間があってもよかった。</p> <p>② テーマなしで答えられないと逆効果なので、テーマなしは難しい。</p>
	<p>5 配信 ライブ配信、Zoom配信なども検討すべき。</p>
	<p>6 その他 議員はもっと積極的に周知を行うべき。</p>
成果	<p>① 予想以上の入場者数だった。</p> <p>② 市民から率直な意見を聞くことができた。</p>

◎ 参加者からの発言(主なもの)

1 議会報告会

(1) 総務文教常任委員会の報告について

○さわた図書館・子育て交流広場について。約2億7,600万円もの事業費が計上されているので、費用対効果など教えてほしい。

事業費は令和6・7年度の継続事業費だ。3階を図書館、2階を子育て交流の場とし、今後子育ての拠点にしていきたいという説明だった。費用対効果を何で測るかというのは非常に難しい。図書館を開いて実際にどれぐらいの人数来るか等を見ないと、現時点では評価しにくい。

○そういう見込みを立てずにこれだけの金額をかけるのでは、市民は納得しない。

今後どういう波及効果が出てくるか注視しなければいけない。

◎相川小学校・七浦小学校・金泉小学校の統合について。少子高齢化の中、新たに建てるのだろうか。

相川小学校に一つになる。

(2) 市民厚生常任委員会の報告について

○陳情第11号「介護老人保健施設佐渡を活かし市民が安心できる介護医療充実を求める陳情について」が、賛成7・反対13で否決されたが、賛成の理由も反対の理由も全く分からない。少なくとも否決の場合は、詳しい説明をすべきではないか。

今後、委員長報告の中で対応したい。

●個人番号の件について。情報が漏れないような体制づくりについて、執行部に確約させてほしい。

この条例(議案第90号)が可決しても、総務省の審査等があり、実際には半年ほど時間がある。その間に安全管理措置を講ずる約束をしたので、当委員会においてチェックしていく。

(3) 産業建設常任委員会の報告について

◎雇用機会拡充事業補助金について。予算執行するとき、市長や担当部長はチェックしていなかったのか。

佐渡市は国よりも厳しい基準で審査している。住民票については、国の基準では必要はないが、提出してもらったものだ。

◎雇用機会拡充事業補助金については、3月に出た佐渡市の監査結果に11項目も不適正があるとされている。当時、議会がチェックしていれば、外部からの通報の前には是正することができた。指摘は今回の件のほかにも及んでいる。議会は特別委員会をつくって、きちっと精査すべきだ。

佐渡市の監査から指摘があった内容は、9月定例会以前に6月定例会においても対応しているが、議会側が指摘できなかったことは反省しなければならない。国からも細かく調査しろという方針が来ていると聞いているので、それに沿って対応していきたい。

2 市民意見交換会(議員定数について)

(1) 定数増 なし

(2) 定数減

佐渡市の推計人口と類似した県内市の例に比べて考えれば、議員定数は18名もしくは16名が望ましい。そのためにも質の高い議員が必要だ。議員の質が高ければ、定員が18名でも16名でも、議会は成り立つ。

18人が適当だ。市民の中には、生活が苦しいときに、なぜ今回の選挙は21人のままなのだ、18人にしなかったのかという意見が多い。なお、今の議会のように住民の生活とか苦悩を感じられないレベルなら15人でいいという意見もある。

(3) 現状維持

現状維持。定数と併せて選出の仕方を検討してほしい。例えば、国政選挙の小選挙区制と同じように、旧10市町村から1人ずつ選んで、残り11人は佐渡全域から選ぶようにすればよい。

(4) その他

定数が減になると、組織票を持っている人たちがものすごく有利になる。全体の意見を吸い上げてくれるかどうか、非常に不安だ。

基本的に減らすことには反対。ただし、今のように、チェックができないような議会であれば、削減はやむを得ない。議員定数は、単純に人口規模でとらえるのではなくて、佐渡の特殊性を踏まえ、どうしたら市民感覚を捉えられるか考えて議論すべき。

定数については佐渡市相応の定数にすべき。企業が業績に応じて給料を下げるのと一緒だ。今の議員は全然市民の声を聞いてない。何か大きなテーマについては、地元などへ行って意見を聞くべきだ。しっかりやることをやって、それでも議員が足りないなら多くすればいいし、やらないのなら少なくすればいい。